

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 87人

② 算数 87人

5 留意事項

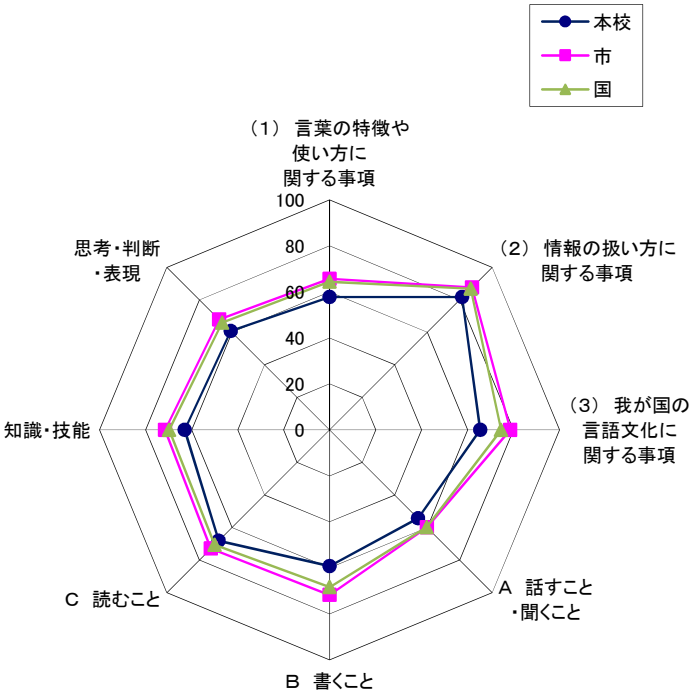
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	57.8	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	81.6	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	65.5	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	54.4	59.9	59.8
	B 書くこと	59.2	71.8	68.4
	C 読むこと	68.2	72.9	70.7
観点	知識・技能	63.0	71.5	69.8
	思考・判断・表現	60.8	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

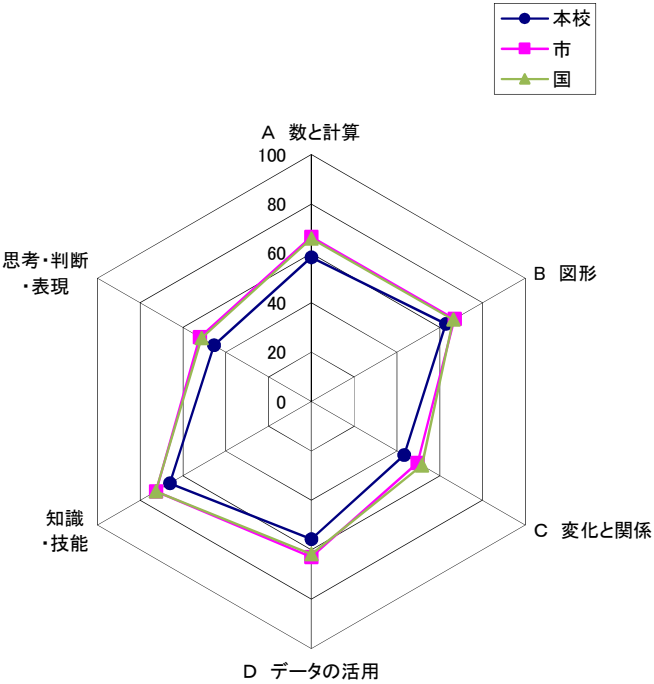
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●漢字を文の中で正しく使う問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。 ●長く複雑なつくりをしている文から主語を捉える問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・漢字を身に付けるには、反復練習が大切である。授業だけでなく、宿題や自主学習を活用し、定着を図りたい。また、普段のノートや作文などで意識的に漢字を使う経験が必要である。 ・主語と述語の関係性を捉えることについては、「だれが、どうする」の基本的な骨組みを捉えることを意識させ、物語や説明文の読解の授業において根気強く指導していきたい。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市・全国の平均を上回った。 ●情報と情報との関連づけの仕方を理解する問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・情報と情報との関連づけの仕方を捉える際には、与えられた課題に対し、発見したことや思いついたことがどのようなつながりによって図に整理されているのか、その図はどのような意図でつくられているのかなど情報を分析しながら読み取る指導を進めていきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市・全国の平均を上回った。 ●ある人物が書いた感想文から、その人の気持ちを理解する問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・与えられた感想文の内容に対して、自分の思った事を、そのまま表現するのではなく、相手の気持ちに立って考える事が大切であるため、相手の話をよく聞いて、相手が何を求めているのかなどを考えるコミュニケーションの活動も活用しながら、指導をしていきたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える設問では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・話し合いの目的や相手意識を大切にしながら、必要なことを質問し、答えてくれた内容をメモしてまとめることを取り入れた話し合い活動が効果的に行われるよう指導していきたい。 ・選択肢の文が似ている表現が多く、誤った選択をしていることがあるため、聞かれていて質問に対する答えとして適切なのはどれかを判断できる力を伸ばしていきたい。
B 書くこと	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することを問う設問では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・自分の考えを作文することはできていたが、条件を満たさず問題に取り組んでいた。作文指導においては、テーマ作文を実施し、テーマを満たすには、どのように表現すればよいのか考えながら書くことを通して、書く力を伸ばしていきたい。
C 読むこと	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●文章を読んで考えたことに基づく話し合い活動に関する設問では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・話し合いの様子に対する質問には正しく答えられていたが、「自分だったら、どう話をする」という場面設定に対する問いへの回答が不十分であったため、物語を読む学習では、自分が感じた作品のよさを紹介するカード作りなどを取り入れた授業を展開し、指導をしていきたい。

宇都宮市立晃宝小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	58.4	66.7	66.0
	B 図形	62.9	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	43.3	49.6	51.7
	D データの活用	55.7	62.9	61.8
観点	知識・技能	66.2	72.6	72.8
	思考・判断・表現	45.6	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかの問題では、全国の平均正答率を12.7ポイント下回った。 ●除数が小数である場面の除法の計算の問題では、正答率が50%以下となり、課題が残る。	・今後も、様々な計算方法について、既習事項を用いて求め方と答えを式や言葉で記述する活動を、より多く取り入れていくような授業を展開していく。 ・除法の計算問題に苦手意識をもつ児童が多く、さらに小数の除法になると理解が不十分な児童が見られる。基礎問題からの習熟を図っていく。
B 図形	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●球の直径の長さや立方体の一面の長さを求める関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかの問題では、平均正答率が全国的に低いものの、さらに下回り、課題があった。また、無回答率は、全国より4ポイント上回った。 ●角注の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて、記述できるかどうかの問題では、全国の平均回答率より6.5ポイント下回った。	・面積の公式については、具体物や言葉、数、式、図などを用いてその求め方を考え、説明する活動を重要視する。その上で、球の直径の長さや立方体の一面の長さの関係をしっかりと理解できるようにする。 ・具体物や視覚支援教材等を活用し、実際に操作する活動を通して、図形の性質や言葉について理解できるようにし、底面と側面の関係について考えられようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●速さの意味について理解しているかの問題では、全国平均正答率を13ポイント下回った。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断しその理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかの問題では、平均正答率が全国的に低いものの、さらに下回り、課題があった。	・速さの意味についての理解を深め、個別に説明をする場面を授業内で設定していく。 ・速さ・時間・道のりについて求めるとき、その数式を理由を言葉や数を用いて記述して説明することに慣れさせるようにする。 ・場面が複雑になった場合には、数量関係が捉えやすくなるような文章を例示し、問題文を自分が理解しやすい表現に読みかえられて考えられるようにする。
D データの活用	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題は、全国平均正答率を8.4ポイント下回った。また、無回答率も16.1%と高く、課題が見られる。 ●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるか判断できるかどうかをみる問題では、全国平均正答率を9.1ポイント下回っている。	・さまざまなグラフから分かることの文章表現の仕方を例示し、数字を組みかえるなどの作業を通して、慣れさせるようにする。また、示された情報から分かることについて話し合い、必要な数値を読み取ったり、基準値と比べたりすることで、理解を深めていく。 ・学習素材を児童の現実場面から見つけ、実際にデータを集めグラフ化するなどして、統計的な処理の目的やよさについて実感的な理解を深めていく。

宇都宮市立晃宝小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の設問への肯定的回答が87.0%であり、全国や県の数値を上回っている。「先生はあなたの良いところを認めてくれると思いますか」の設問に肯定的回答が91.3%であり、児童の自己肯定感が高い要因にもなっていると思われる。今後も維持しながら、更に高められるように声かけを継続していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問への肯定的回答が100%であり、全国や県の数値を上回っている。いじめに対する指導を、道徳や学級活動の時間、学校行事と連携した取組など、継続的に指導してきた結果であると予想される。更に、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の設問への肯定的回答が96.7%と全国や県の数値を大きく上回っている。いじめに関する意識の高まりが、周りの友達にも優しく接しようという行動面にも現れた結果であることが予想される。

○授業や家庭学習でICT機器の活用に関する全ての設問について、肯定的回答が全国や県の数値を上回っている。授業や家庭学習における効果的な活用に併せて、思考を促すツールとしても研究を進めていきたい。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」の設問への肯定的回答が96.8%、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の設問への肯定的回答が94.6%と、ともに全国や県の数値を上回っている。今後も、学力向上に向けて、授業でのグループ学習などによる学び合う場を充実させながら学習を行ってきたい。

●「朝食をとっている、就寝の時間」の設問での肯定的回答が全国や県の数値を下回っている。しかし、「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」の肯定的回答は全国や県の数値を上回っているため、家庭科や学級活動の時間などでの指導は継続し、家庭と連携した生活習慣の改善を各家庭に呼びかけていきたい。

●「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問での肯定的回答が全国や県の数値を下回っている。授業だけでなく、学校全体においても、インターネットの正しい使用方法やSNSの危険性についての指導を定期的に行い、家庭においても周知啓発を行っていきたい。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の設問での肯定的回答が全国や県の数値を下回っている。授業での困りごとには個別に対応していき、併せて、家庭学習においても、辞書などを使った語句の調べ学習やドリルを使った反復学習を取り入れた自主学習なども活用しながら指導をしていきたい。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の設問での肯定的回答が全国や県の数値を下回っている。発表の機会確保のため、身近なテーマをもとにした1分間スピーチの実施、ノートやICT機器による個人の考えや感想を授業の発表に取り上げるなどを行い、発表した児童に対し、称賛やアドバイスをを行い、自信をもって自分の考えが発表できるように支援していきたい。

宇都宮市立晃宝小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○ICT機器の効果的な活用の授業実践に関する研究 ○学習習慣の定着のための指導	○学習用具の準備や学習のきまり、話し方・聞き方等の学習態度や学習技能を育てるための指導を学校全体で共通理解し取り組んでいる。 ○ICT機器の効果的な活用の実現を目指し、学校全体で研究している。	○ICT機器を使うことで、楽しみながら学習を進めることができるという質問では、肯定的回答が全国や県に比べ上回っていた。ICT機器を使って、楽しみながら学習に取り組めるような授業を引き続き計画して行きたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本の定着 ○無回答率の高さ	○基礎・基本の定着を目指した学習指導の工夫 ○最後まで諦めないで取り組む学習態度の育成	○パワーアップシート、ステップアップシート、AIDドリル等の年間を通しての効果的な活用。 ○授業でのICTの効果的な活用についての研修。